

肥後医育振興会に期待する

在宅医療のさらなる推進に向けて



熊本市健康福祉こども局長 宮本 邦彦

公益財団法人肥後医育振興会におかれましては、日頃より、地域医療の向上と住民の健康増進に努められ、本市の保健医療に多大な貢献をいただいておりますことに深く感謝申し上げます。

現在、我が国におきましては、世界に類を見ない急速な少子高齢社会を迎えており、そのことが医療・介護需要の急激な増加を招き、二〇二五年問題として大きく注目されています。熊本市の高齢化率は、二〇二五年には二八・七%になると推計されており、このことは、単に高齢者の増加というだけではなく、高齢単身者や高齢者のみの世帯の増加、そして認知症の増加も加わり、今後ますます介護需要等の増加を招くこととなります。

市民アンケートによりまずと、長期療養が必要になった際に、自宅中心の療養を希望する方が五割を超えておりますが、実際には、家族の介護負担に対する懸念や容態が急変したときの不安などから、病院や施設などでの療養を選択される方が多いようです。

本市におきましては、住みなれた地域で自分らしい生活を人生の最後まで続けることができるよう、住まい・医療・介護・介護予防・生活支援が一体的に提供できるよう「地域包括ケアシステム」の構築に取り組みんでおりますが、中でも、医療と介護が

緊密に連携する在宅医療体制の充実が特に重要と考えております。

そのため、在宅医療や介護に関わる多くの専門職の方々の連携を深める多職種連携研究会や在宅医療に関する市民講演会の開催など、皆様のご協力を得ながらその取り組みを進めてまいります。

在宅医療におきましては、日常の疾病の管理から、容態が急変した際の対応、そして、人生の最終段階における医療や看取りに至るまで、かかりつけ医の先生が重要な役割を担っておられますが、一人の医師で在宅医療患者のすべてのことに対応するには困難なことが多く、複数の医師で対応する連携や入院が可能な後方支援病院との連携など、新たな医療連携体制が求められています。

肥後医育振興会におかれましては、このような連携体制の構築にご協力いただきますとともに、今後とも本市の地域医療の推進に対し、なお一層の御支援と御協力を賜りますようお願い申し上げます。



肥後医育振興会に期待する



荒尾市医師会会長 藤瀬 隆司

財団法人肥後医育振興会は平成八年の熊本大学医学部創立百周年を記念して熊本大学医学部同窓会および医学部後援会によって設立され、本年度で十八周年を迎えられた事を心よりお慶び申し上げます。肥後医育ニューズレターへの原稿依頼を受け改めて以前の分を読みなおしました。まずは我が恩師で初代理事長であられた徳臣晴比古先生の自筆の題字が目に入り、医局員時代の思い出が目につかび、大変感激を致しました。た。た徳臣先生は本年八月八日に鬼籍に入られ誠に残念ですが、この場をお借りしてご冥福をお祈りいたします。

さて、肥後医育振興会は熊本県における医学・医療振興に必要な教育、研究の助成地域医療の向上と県民の健康増進、日本国内外の医学・医療の進展に寄与する事を目的として種々に事業を展開されておられますことに対して心より敬意を表します。

荒尾市という熊本県の北の端にある人口五万五千人の医師会の会長として荒尾の現状を述べお願いをさせていただきます。荒尾市は福岡県大牟田市と県境をなしており、熊本県下の他地域とは医療状況が特異であります。大牟田市の人口は約一三万人で荒尾市とあわせると一八万五千人ほどの人口となり、三池炭鉱の城下町として栄え歴史的にも地理的にも共通文化圏を形成しています。平成二十七年夏の国連教育科学文化機関（ユネスコ）の世界遺産登録を目指し荒尾の万田坑、大牟田の宮浦坑等三池炭鉱

関連施設を含め「明治日本の産業革命遺産―九州山口との関連地域」が本式に推薦されることと決定し共にPRに頑張っています。

熊本県の荒尾、玉名で構成される有明医療圏と合わせると人口は三〇万となり立派な二次医療圏となります。現在熊本県の有明医療圏より入院流出率が四四%となっております。新臨床研修制度が始まり医師の大学への引きあげがおこり、荒尾市の基幹病院である荒尾市民病院では小児科に続き、呼吸器科、消化器科、神経内科が常勤医がいらない状態となり診療科の閉鎖が相次ぎました。このため専門医の地域分布が変わり、医療連携により県外への患者流出が増加したと考えられます。

第六次熊本県保健医療計画策定では医療圏の見直しが行われ、流入流出の割合で再編が行われる可能性があります。荒尾市に於いては荒尾市民病院の充実発展が圏域の入院患者の流出の減少、流入の増加のために不可欠です。地域医療の連携の充実と向上のためには中核病院への医師の派遣が是非必要であり、肥後医育振興会には地域医療に従事する医師の確保、人材育成医療提供体制の整備などにお力をお借りできればと考えます。

最後になりましたが、肥後医育振興会の諸活動を通じて熊本県下の医学医療がますます発展されますことを祈念いたします。